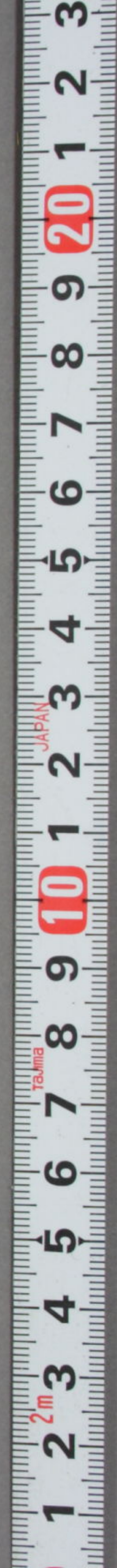




傾城水滸傳第九編

へ13
3019
8



特
へ13
3019
8

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第九編

歌川國安画
上帙卷之上

江戶龜油町書肆

壹

予衛水滸傳の趣向を評して初中後三段の差別ありと云ふは是皮
 未發の説維貫今不在焉とも必ず全言小從入考原小金聖歎が評
 論石碣妖と發く小始と石碣妖と鎮ふ小妖る便是七十回全部
 と云ふ所以といふ評事といひべし何と云はれ彼石碣の天降と義吉宿
 因と示せる中段第三の趣向なり其の時魔縁をなぐ蝎と宋江等百
 八人酒宋の忠臣と云ふるものと遠を討且方臘を征するの語説
 の是を末の一段へ備へ十回と云ふるは全部と云ふは末一段を
 捨てる作者の本意豈然らんや古人と云く讀書百遍初て
 意の通むべし嗚呼書を終る支の難はゆえ書と看ることも易く
 る前も論やと云ふ水滸小善悪を差別する趣向は彼と云か
 は邪魔出現の間のそ中武松と張都監と主從とを怨の

卍

ものごとの果は一家と肩救ある罪惡最酷この故に予がは這策
 子武松と武世の扱ふ及びて興風の後宰是を主從と云ふも
 用心のあまのまゝぬ知音の入り好まざるもあらん屬日の人予と屬めて
 水滸の評と昔者との予の亦あめ意をたのめね世小説讀むものゆ
 まま意味する稀申斐然所為と云ふもの策子は篇毎小序小
 代との批評を附するは九牛の一毛なり楮小畫をくもあはぬも猶
 婦幼の厭れせん飽れせん飲抑唐山の俗語讀得て白あんと欲する
 のの字義の穿徹兼且消し趣向の巧拙を評するは通俗本で問を合
 まる原書の甘味と知ら小由るの過不及の中執る換骨奪胎類ると
 んの島許る戲墨の一流戲謹まらる唐せざる本性達るを述ると云ふ
 文政十三年庚寅正月十日新版曲亭馬琴識



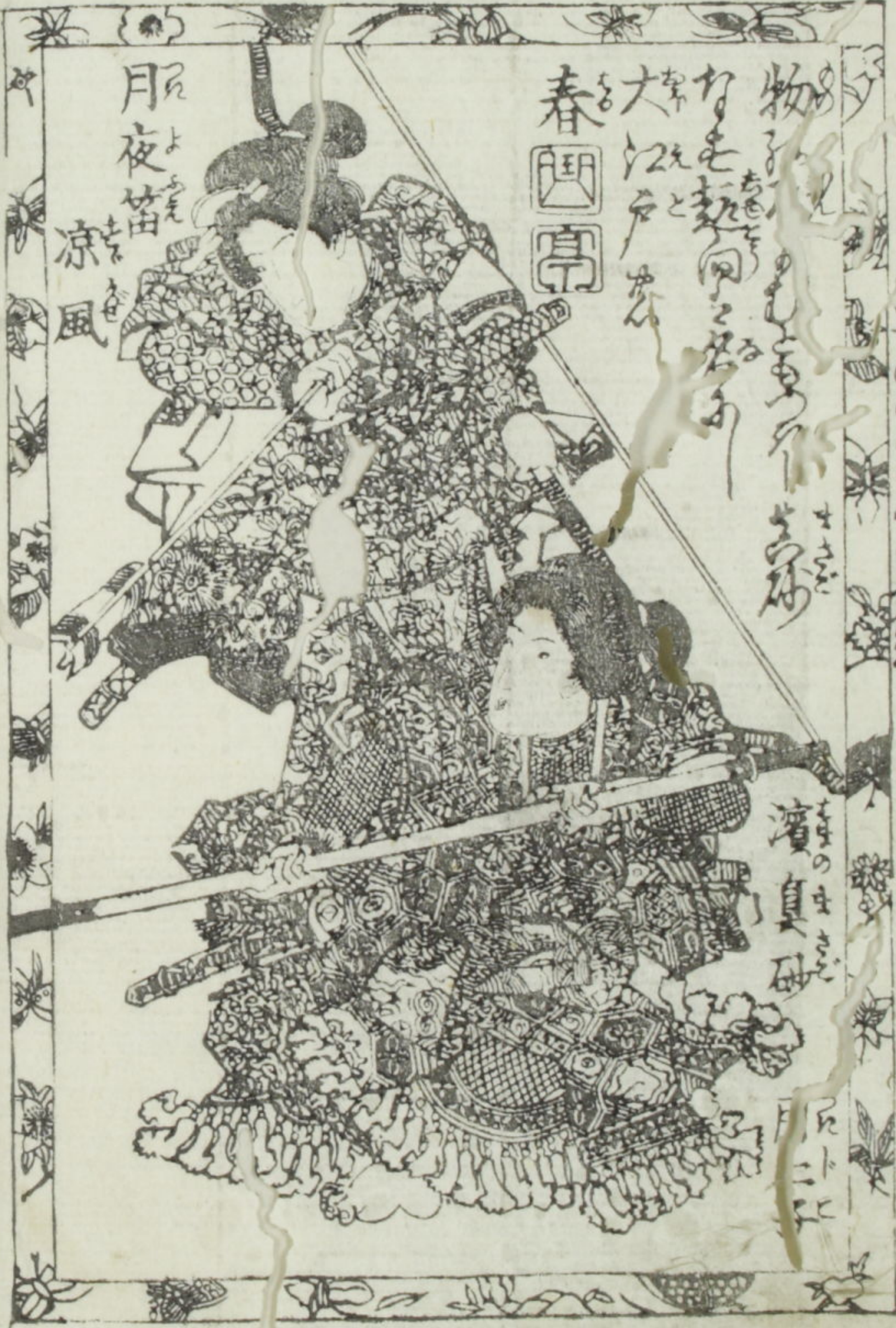


蓬萊城背尔
 蓑龜
 曳尾

越上
 波もたぎ
 つたは

言
 言

大正十一年三月廿一日

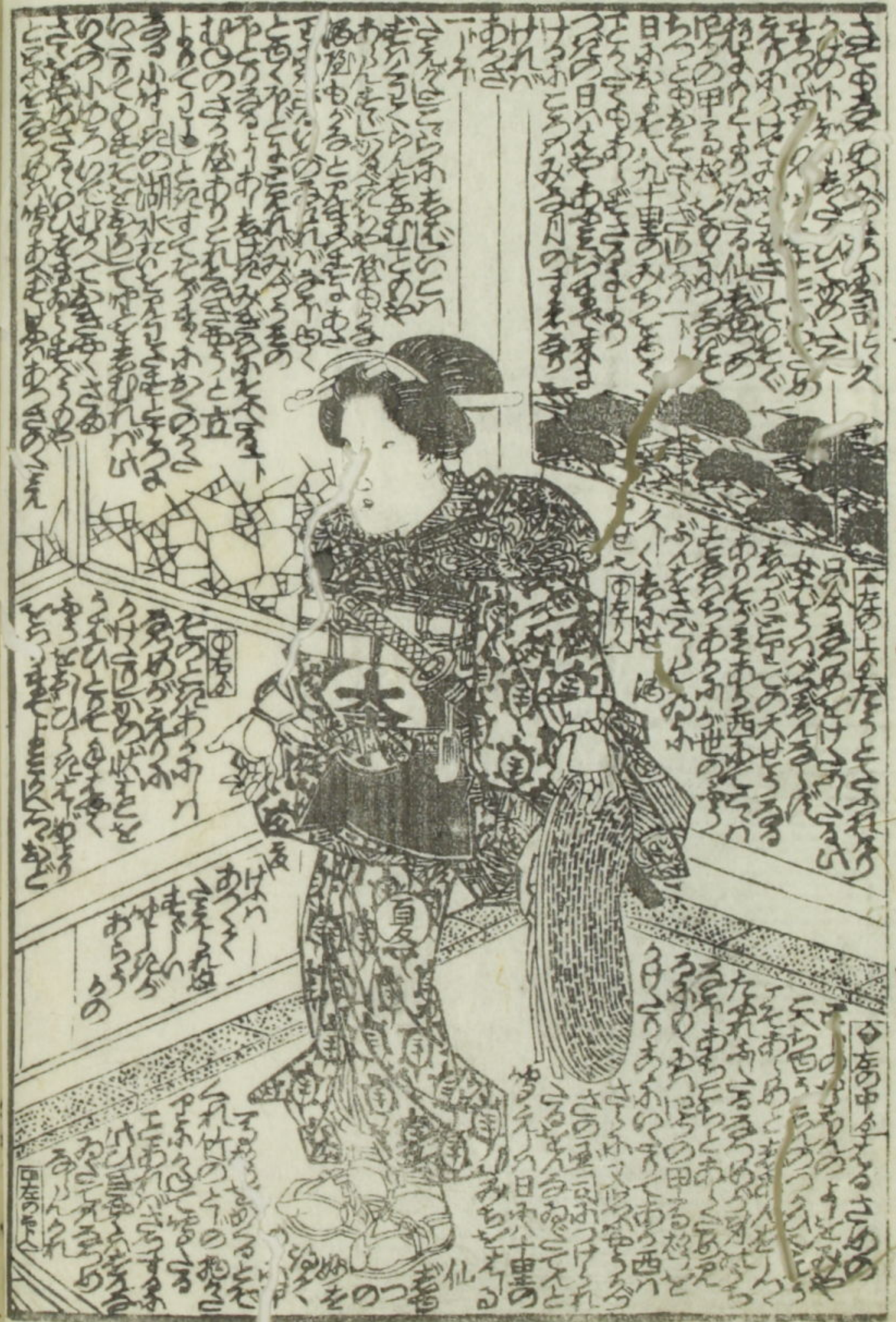


春
 大
 物
 物
 物

月夜笛
 涼風

濱
 月







これ亦大味の香も... 又左の上の... 東洋の... 石見の... 大味の香も... 又左の上の... 東洋の... 石見の...



このあつちの... 石見の... 大味の香も... 又左の上の... 東洋の... 石見の...



石見の志の巻第九編

石見の志の巻第九編





年代記御祝儀日童講譯

此御史の神代のむらより年代記の考へたるの外にれたるを補ひあひらるるを絵にあらわしこれをよめりし世々のむらよりあらわめて童子ののれたるたよりともなるるにあらわし

御祝儀日童講譯 全部十二冊 山東庵京山作

此御史の正月の松を始とて十二月の祝儀日の故吉末歴とてくまじそのむらよりあらわし年中の祝儀ののれたるを早学問のあらわし

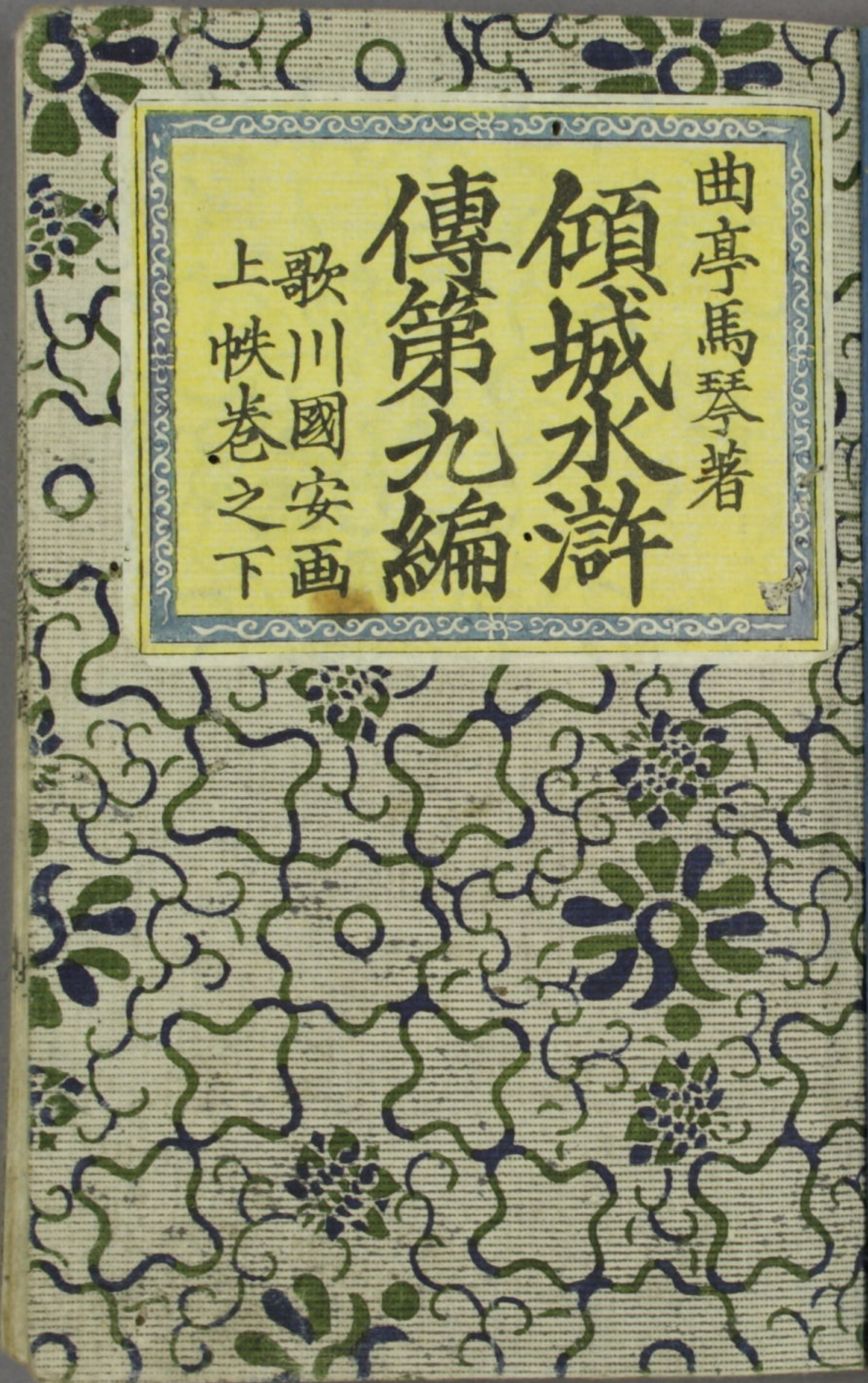
奉獨藝古中本 全一冊 山櫻連々合作 逸軒揺舟

この書は春と夏の二巻に分れておるが、その中に、朝夕の物語、月夜の物語、など、いろいろの物語が載っている。また、その中に、朝夕の物語、月夜の物語、など、いろいろの物語が載っている。

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第九編

歌川國安画
上帙卷之下



傾城水滸傳第九編

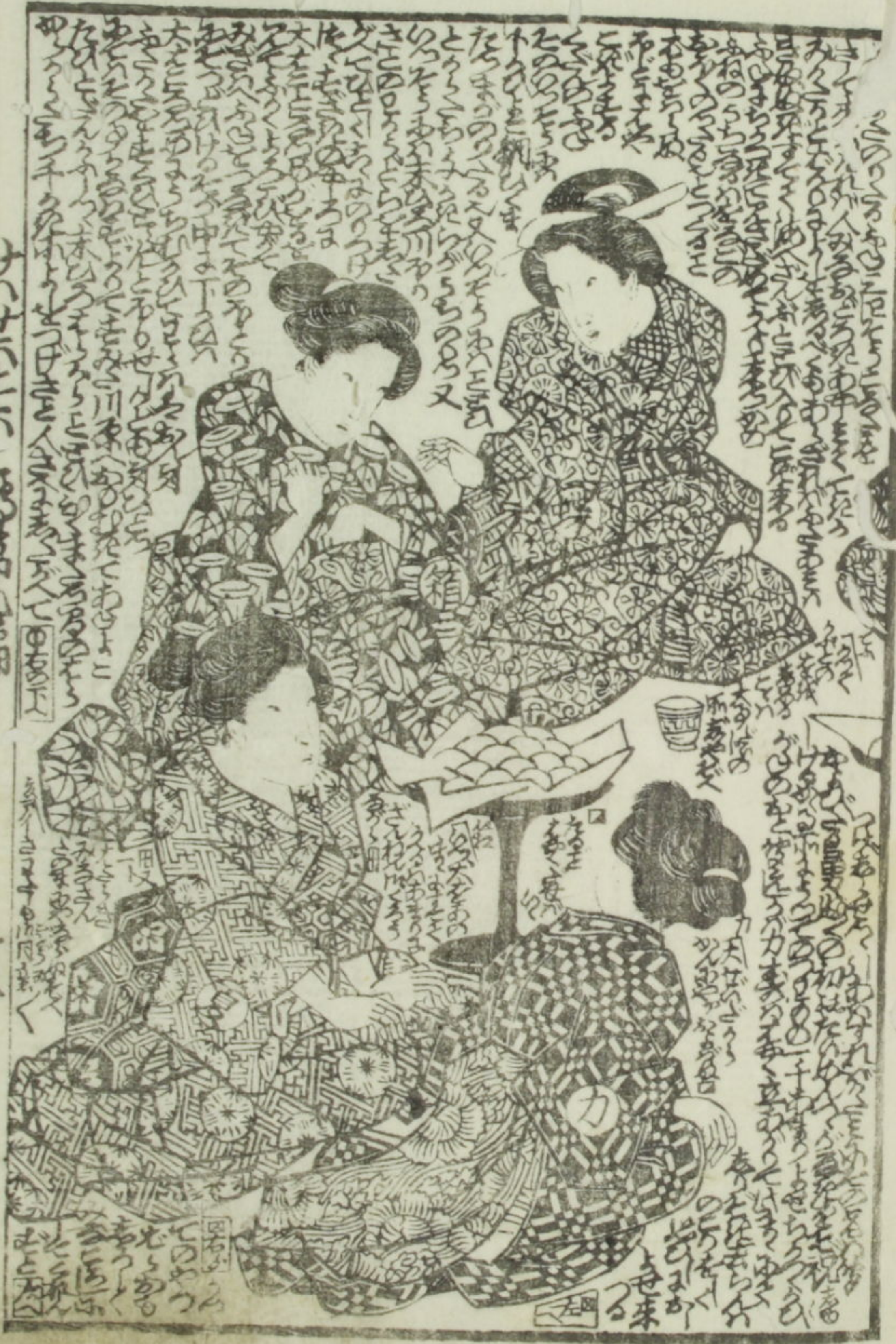
上帙之貳 國安繪画

謙小擬ま和文字植梨の傳玉臂匠金大堅小擬ま聖刀子鑄妙
 傳通臂猿候健小擬ま備鍼妙拔糸の傳摩雲金翅歐鵬小
 擬ま廿化摩多大鳥の傳神筆子蔣故小擬ま瀆真子月子子傳
 鐵笛仙馬麟小擬ま月夜笛涼風の傳九尾龜宋旺小擬ま其哀龜
 曳尾の傳笑面虎朱富東擬ま朝笑子富崎の傳青眼彪李雲擬ま
 る重機彩雲の傳新舊三十三勇婦加洲崎の社小集の義を勇
 む大箱夏女の釋尼の循環船現莫逆の友細の頼ゆ中中山谷酒宴
 曲亭馬琴著 江戶通油町書林鶴屋喜右衛門印行

和歌



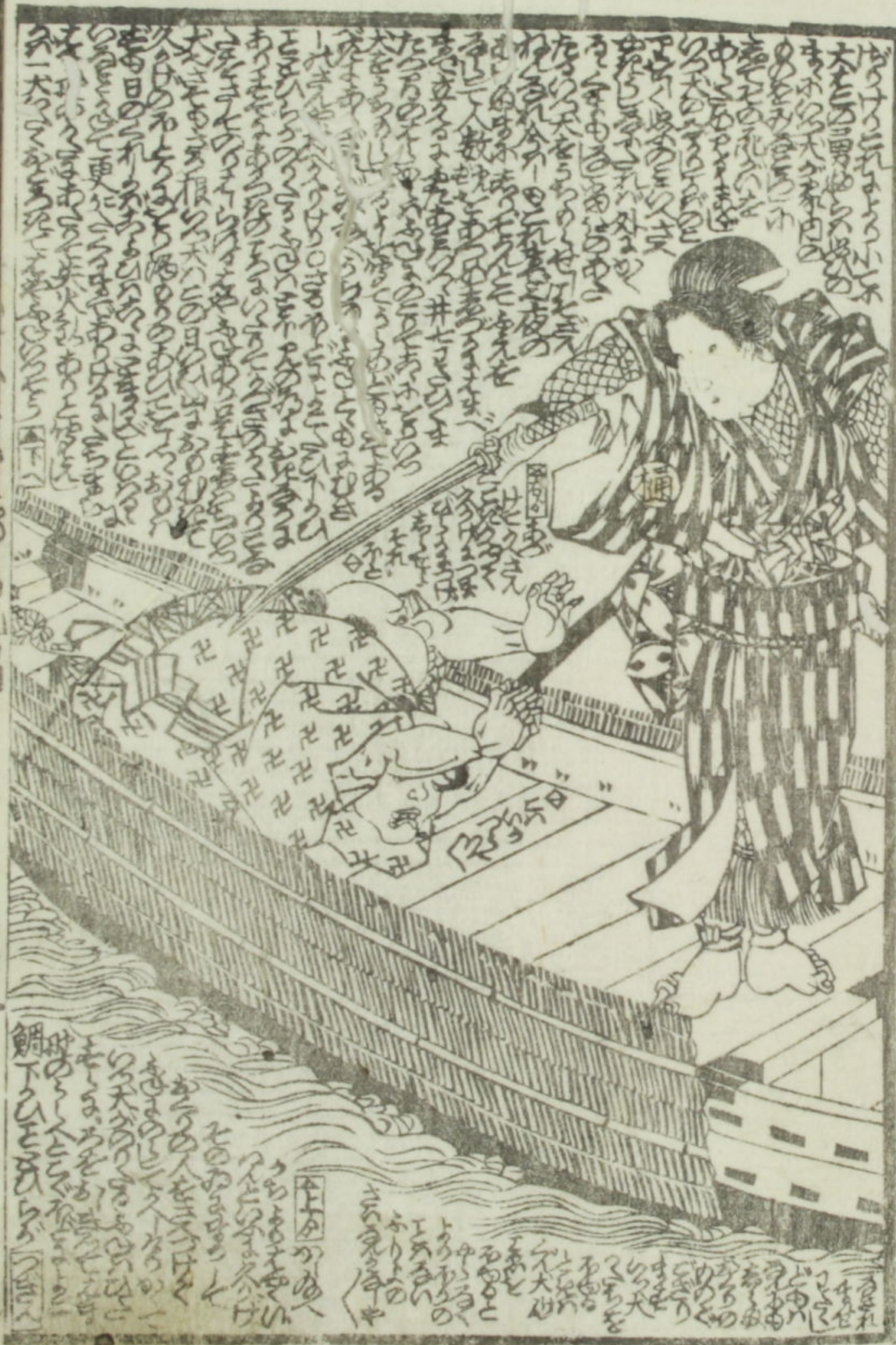




Vertical handwritten text on the right margin of the right page, likely a commentary or additional narrative.









Vertical text on the right edge of the right page, likely a page number or a title.

Vertical text on the right edge of the right page, likely a page number or a title.

芳州集 全冊
蘭集 全冊
遊言 畫手本一名
鳥羽繪早
畫中早部大金

新形染彩目
芝居似顔早部
後編
全冊五渡亭國貞畫

忠臣水滸傳 繪入 十冊
稗史水滸傳 初編六編迄共三
水滸傳 劇場雛形 初編 四冊
鶴屋南北作
柳亭種彦譯
水滸傳 豪華傑雙六歌川國芳畫
重田貞一譯
繪本三國志 初編八冊出来
歌川國安畫
繪本漢楚軍談 初編五編迄
通儀漢楚軍談 五冊出来

忠臣水滸傳 繪入 十冊
稗史水滸傳 初編六編迄共三
水滸傳 劇場雛形 初編 四冊

稗史水滸傳 初編六編迄共三
水滸傳 劇場雛形 初編 四冊

水滸傳 劇場雛形 初編 四冊
鶴屋南北作
柳亭種彦譯

稗史水滸傳 初編六編迄共三
水滸傳 豪華傑雙六歌川國芳畫
重田貞一譯

水滸傳 豪華傑雙六歌川國芳畫
重田貞一譯
繪本三國志 初編八冊出来
歌川國安畫

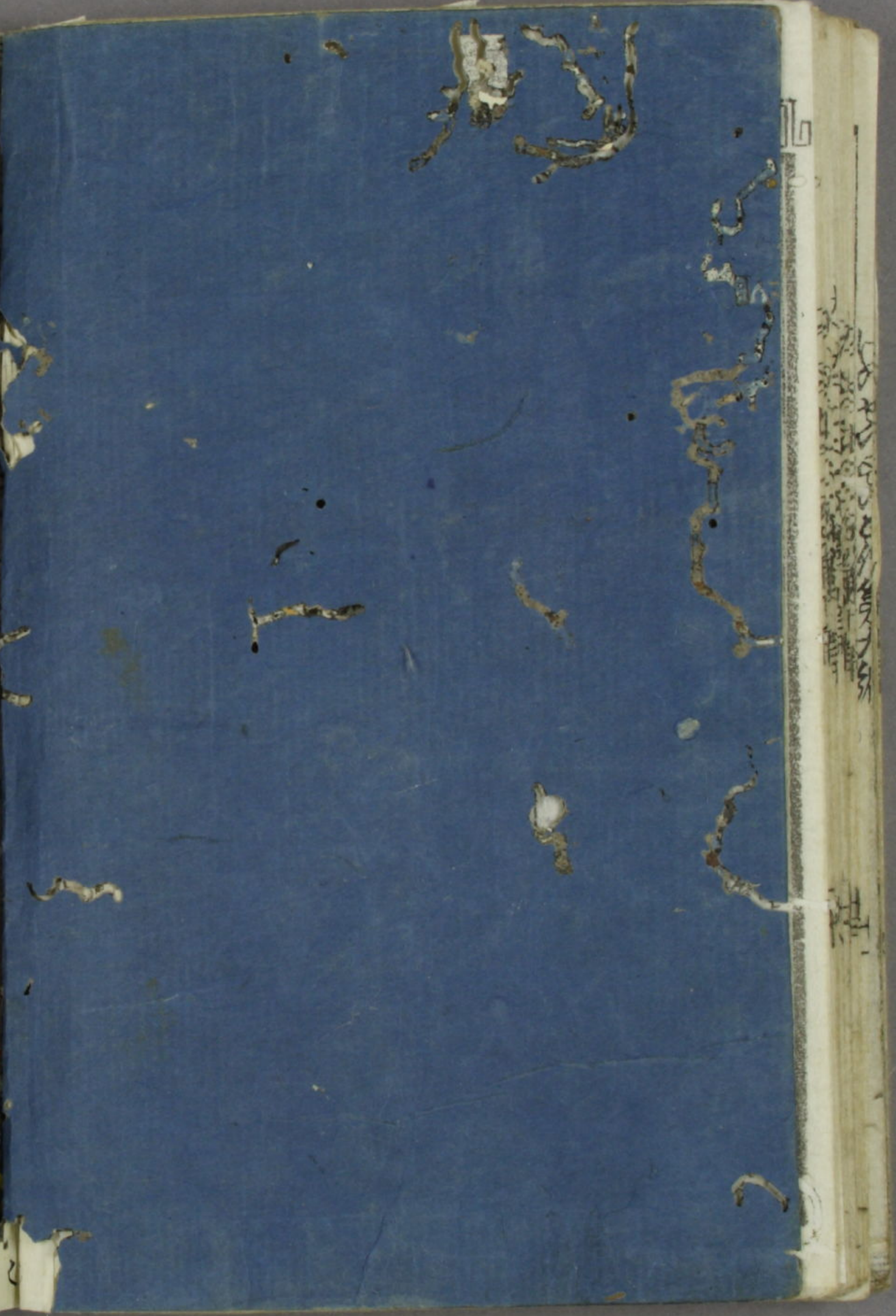
繪本三國志 初編八冊出来
歌川國安畫
繪本漢楚軍談 初編五編迄
通儀漢楚軍談 五冊出来

繪本漢楚軍談 初編五編迄
通儀漢楚軍談 五冊出来



馬琴著

江戸通油町
下駄
屋喜右衛門



曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第九編

歌川國安画
下帙卷之上

江戸通油町書肆

鶴屋喜右衛門

曲亭馬琴著

下帙四弓合本

還道村受天書

久さらしむふてんをまをく
そのくこの個ハ

轉禍為福通夜物語

傾城水滸傳第九編之三

丹波路懲贖物

はては小後
颯風力書時ガ

吹毛求疵舊里話表

歌川國安画

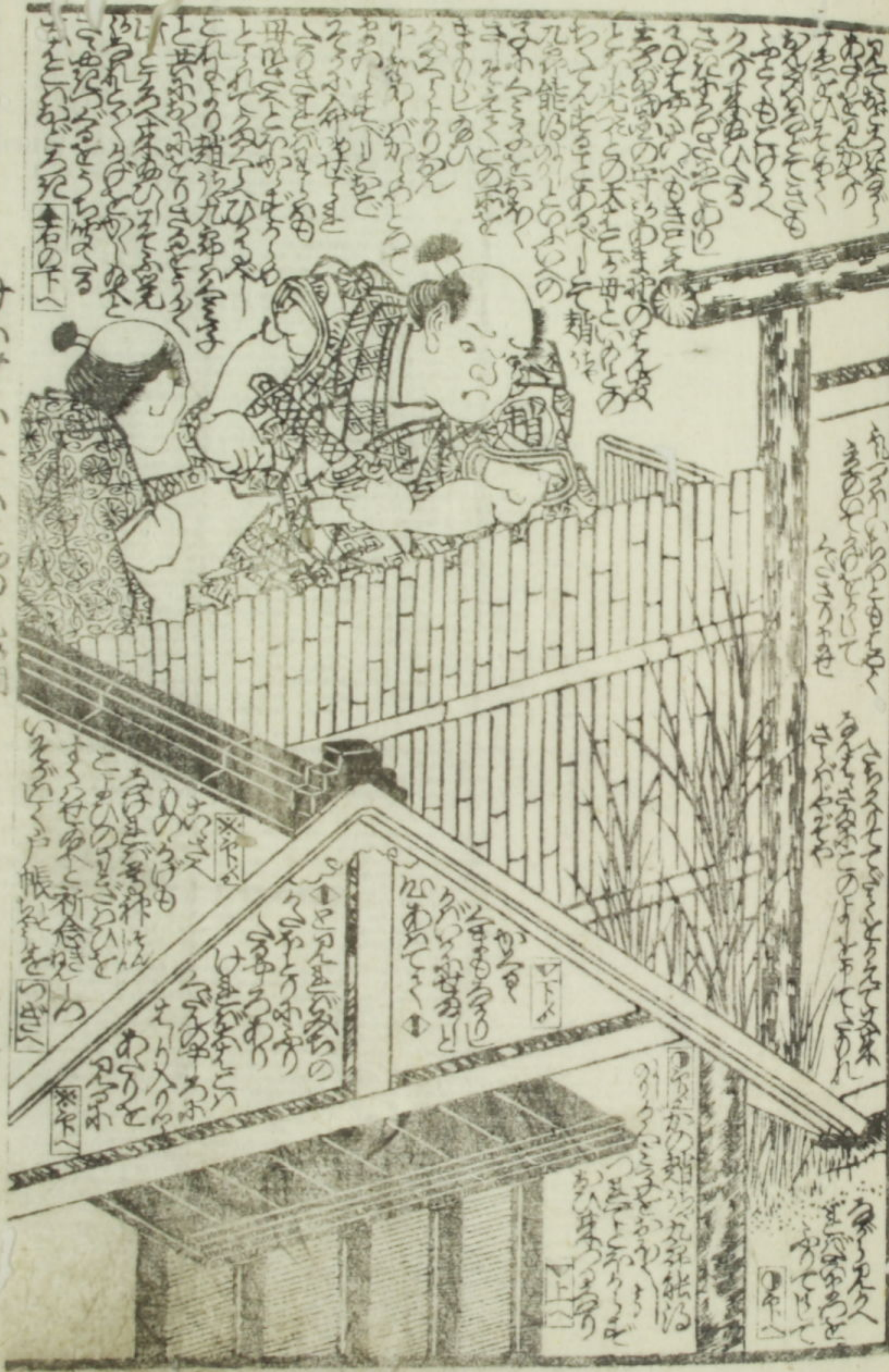
書行儂鶴堂梓

和歌

五



從是宋公明村下場



しんせいのこは九編

九一



大正十一年九月

十一



大正十一年九月

十二



本朝の服飾の式目

九

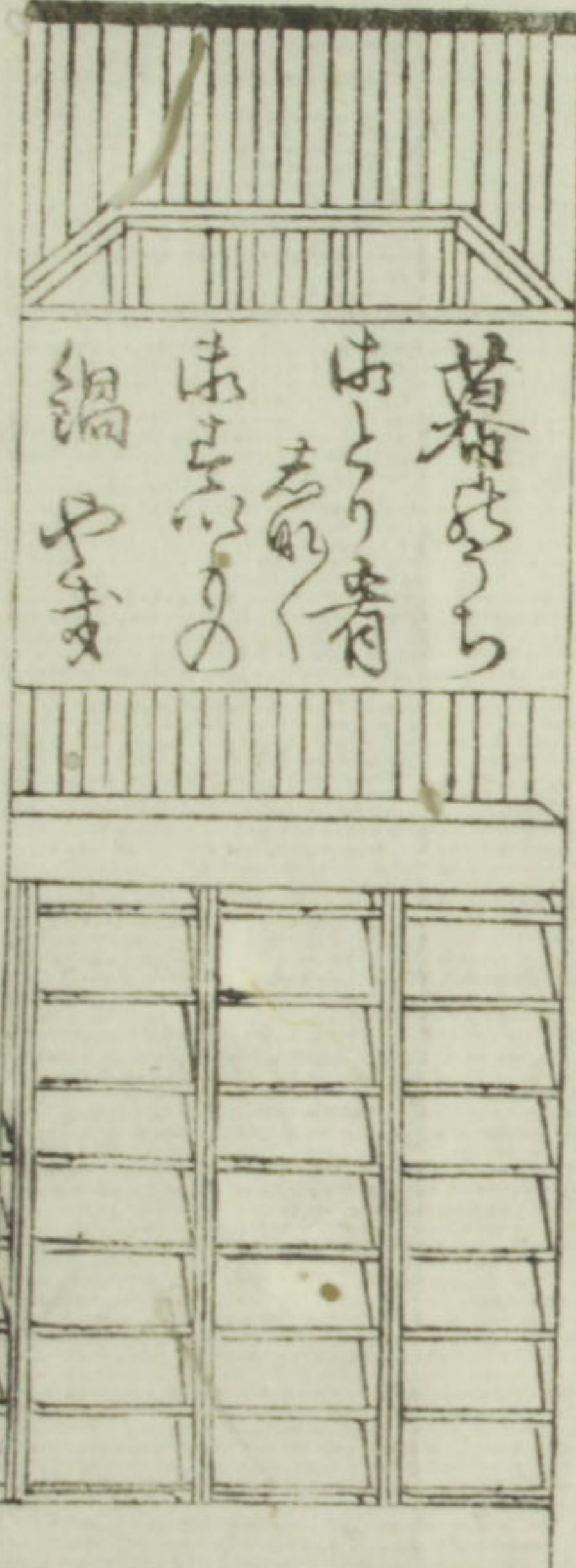
本朝の服飾の式目... 一、冠... 二、袴... 三、襦袢... 四、帯... 五、履... 六、髪... 七、化粧... 八、扇... 九、手袋... 十、靴... 十一、襦袢... 十二、袴... 十三、帯... 十四、履... 十五、髪... 十六、化粧... 十七、扇... 十八、手袋... 十九、靴... 二十、襦袢... 二十一、袴... 二十二、帯... 二十三、履... 二十四、髪... 二十五、化粧... 二十六、扇... 二十七、手袋... 二十八、靴... 二十九、襦袢... 三十、袴... 三十一、帯... 三十二、履... 三十三、髪... 三十四、化粧... 三十五、扇... 三十六、手袋... 三十七、靴... 三十八、襦袢... 三十九、袴... 四十、帯... 四十一、履... 四十二、髪... 四十三、化粧... 四十四、扇... 四十五、手袋... 四十六、靴... 四十七、襦袢... 四十八、袴... 四十九、帯... 五十、履... 五十一、髪... 五十二、化粧... 五十三、扇... 五十四、手袋... 五十五、靴... 五十六、襦袢... 五十七、袴... 五十八、帯... 五十九、履... 六十、髪... 六十一、化粧... 六十二、扇... 六十三、手袋... 六十四、靴... 六十五、襦袢... 六十六、袴... 六十七、帯... 六十八、履... 六十九、髪... 七十、化粧... 七十一、扇... 七十二、手袋... 七十三、靴... 七十四、襦袢... 七十五、袴... 七十六、帯... 七十七、履... 七十八、髪... 七十九、化粧... 八十、扇... 八十一、手袋... 八十二、靴... 八十三、襦袢... 八十四、袴... 八十五、帯... 八十六、履... 八十七、髪... 八十八、化粧... 八十九、扇... 九十、手袋... 九十一、靴... 九十二、襦袢... 九十三、袴... 九十四、帯... 九十五、履... 九十六、髪... 九十七、化粧... 九十八、扇... 九十九、手袋... 一百、靴...



十

本朝の服飾の式目... 一、冠... 二、袴... 三、襦袢... 四、帯... 五、履... 六、髪... 七、化粧... 八、扇... 九、手袋... 十、靴... 十一、襦袢... 十二、袴... 十三、帯... 十四、履... 十五、髪... 十六、化粧... 十七、扇... 十八、手袋... 十九、靴... 二十、襦袢... 二十一、袴... 二十二、帯... 二十三、履... 二十四、髪... 二十五、化粧... 二十六、扇... 二十七、手袋... 二十八、靴... 二十九、襦袢... 三十、袴... 三十一、帯... 三十二、履... 三十三、髪... 三十四、化粧... 三十五、扇... 三十六、手袋... 三十七、靴... 三十八、襦袢... 三十九、袴... 四十、帯... 四十一、履... 四十二、髪... 四十三、化粧... 四十四、扇... 四十五、手袋... 四十六、靴... 四十七、襦袢... 四十八、袴... 四十九、帯... 五十、履... 五十一、髪... 五十二、化粧... 五十三、扇... 五十四、手袋... 五十五、靴... 五十六、襦袢... 五十七、袴... 五十八、帯... 五十九、履... 六十、髪... 六十一、化粧... 六十二、扇... 六十三、手袋... 六十四、靴... 六十五、襦袢... 六十六、袴... 六十七、帯... 六十八、履... 六十九、髪... 七十、化粧... 七十一、扇... 七十二、手袋... 七十三、靴... 七十四、襦袢... 七十五、袴... 七十六、帯... 七十七、履... 七十八、髪... 七十九、化粧... 八十、扇... 八十一、手袋... 八十二、靴... 八十三、襦袢... 八十四、袴... 八十五、帯... 八十六、履... 八十七、髪... 八十八、化粧... 八十九、扇... 九十、手袋... 九十一、靴... 九十二、襦袢... 九十三、袴... 九十四、帯... 九十五、履... 九十六、髪... 九十七、化粧... 九十八、扇... 九十九、手袋... 一百、靴...





昔者おら
あとり香
まのく
あまのの
鍋やま

ナハナハニニおもひし

七一

Vertical text in a column on the bottom left page, likely a commentary or a list of items.

Vertical text on the right edge of the right page, possibly a title or a note.



Handwritten text on the left margin of the landscape page.

Handwritten text on the left margin of the landscape page.



Handwritten text on the right margin of the figure page.

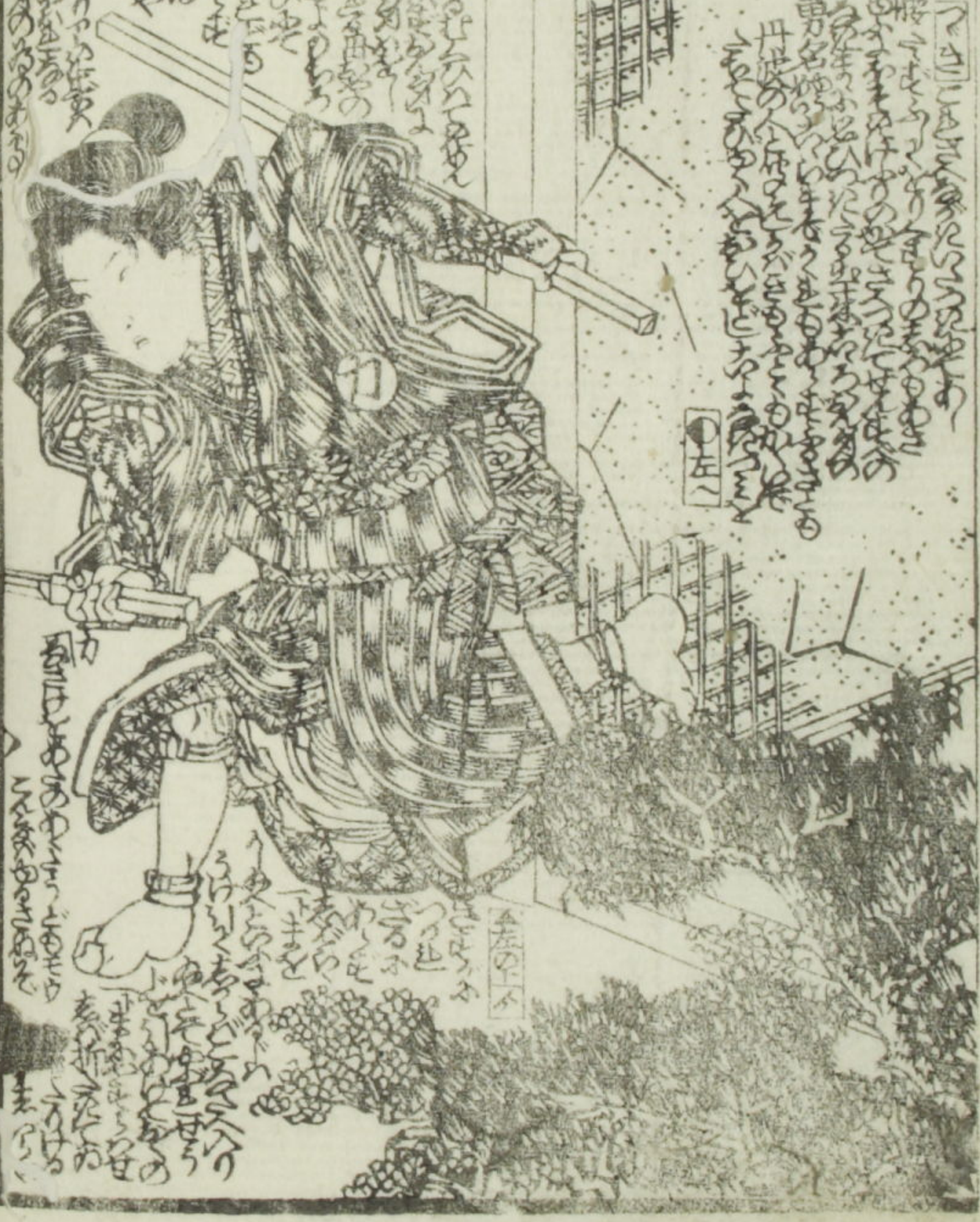
Handwritten text on the right margin of the figure page.

Handwritten text in a cursive Japanese style, likely a commentary or a list of names, arranged in vertical columns on the left side of the page.



Handwritten text in a cursive Japanese style, located at the bottom left of the page.

Handwritten text in a cursive Japanese style, arranged in vertical columns on the right side of the page.



Handwritten text in a cursive Japanese style, located at the bottom right of the page.



年代記児童講譯

此神史ハ神代のむらより年代記不考なるもの外ハれたるを補ひかゝりし三雨々のむらを後にあつたりしこれをよめたりし世々のむらよりあつたりし童子のむらたるたよりともなるなりとせしむる

御祝儀日童講譯 初編六編也 全部十二冊 山東庵京山作

此神史ハ正月の松よりを始として一書に終るを祝儀の七を二巻の事はつりうけのむらとせしむる十二月の祝儀日の故書未だ見ざる事ありしを繪するありし年中の祝儀のむらとせしむる早学文同の事とせしむる

拳獨舊古中本 全一冊 山櫻連々合作 逸軒揺舟

此の書ハ春と夏の二巻ありし初編の官人より終る一巻に終る事ありしを繪するありし年中の祝儀のむらとせしむる早学文同の事とせしむる

劇場顯微鏡

上帙二冊 彩色 默々渙隱著

此書は劇場考古博覧の諸子著述するの類に重なり、その旨も皆故実
濫觴のミとあつて、看すべし、観るの規則をあらわすにまわつて、其の
うらみ、おもしろく、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、
おもしろく、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、

本朝艶容女仙外史

初編 五冊 默々渙隱纂

此書の唐山の逸史、張の筆、その著せし妙業、その奇談、怪説、
に著るるは、其の著るるは、其の著るるは、其の著るるは、其の著るるは、
のうらみ、おもしろく、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、
おもしろく、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、

顯微鏡 萬邦劇場談

上下 二冊 默々渙隱著

此の初編のまゝ、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、
おもしろく、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、

瀧澤管民著

迎福南鍼録

一名 相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本全五冊 繪入 平假名附 近刻

右二書共、遠くは、濶板任、江戸、通、油、町、書、林、仙、鶴、堂、小、林、喜、右、衛、門、印、行

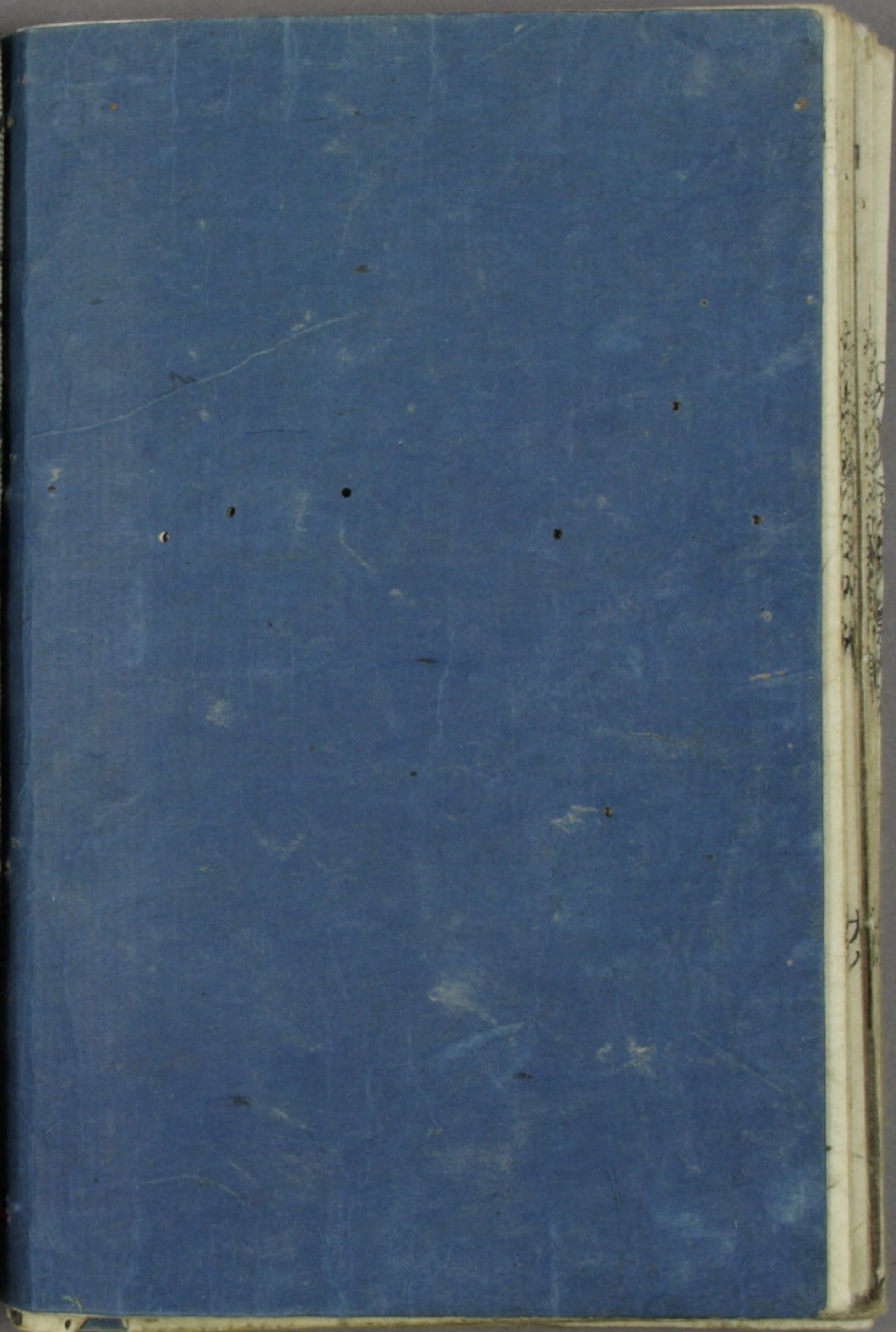
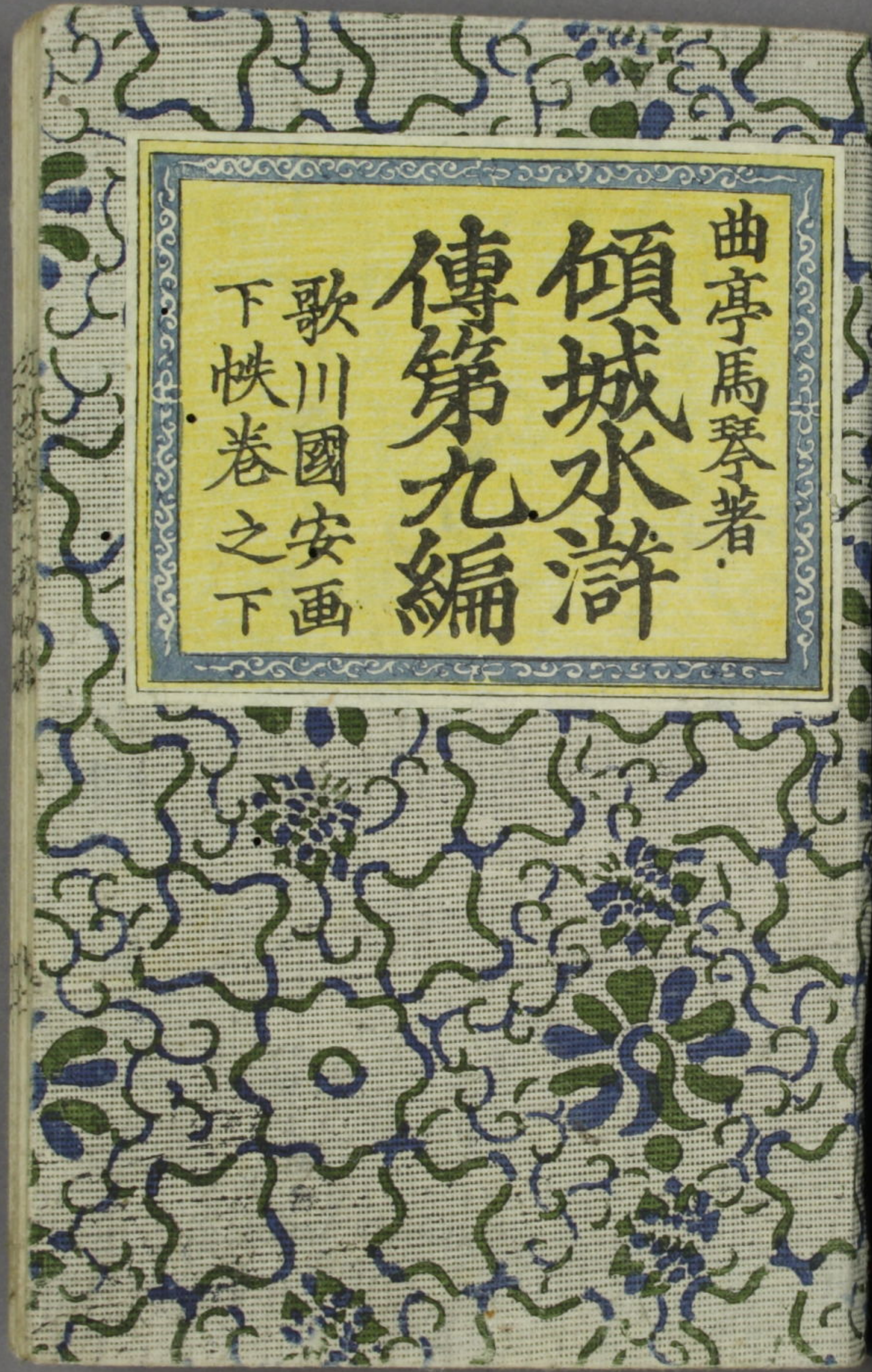
此の書は、相宅の書、年々、出、月、行、く、五、軍、
を、論、少、く、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、
を、論、少、く、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、
を、論、少、く、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、

此の書は、雅俗の進退、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、
おもしろく、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、その旨も、

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第九編

歌川國安画
下帙卷之下



天女廟
神授句

遇門有喜藏六不凶
東與又與於是見功

けせのてふたつたつた

乃四

馬琴著
國安画

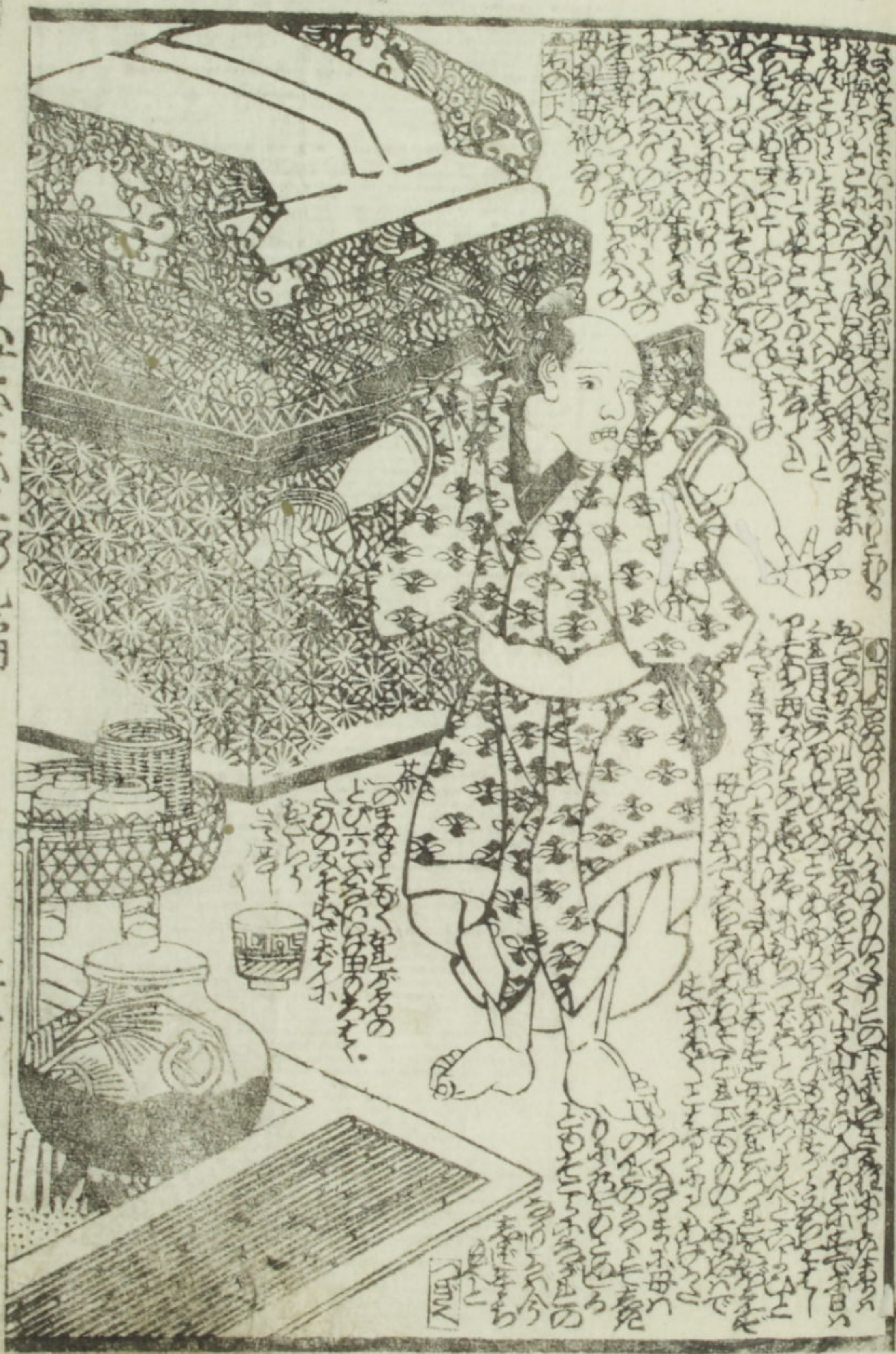
下帙

印行書肆江戸通油町
僊鶴堂鶴屋喜右衛門

蜂尾山
虎豺贊

威服百獸嘗在高崖
彪毛狼質名曰虎豺







Handwritten text in the left margin, likely a page number or title.

Handwritten text in the left margin, likely a page number or title.

Handwritten text in the right margin, likely a page number or title.

Handwritten text in the right margin, likely a page number or title.



廿二日 海也 編

廿四



廿七日 海也 編

廿三

よきことなり... 城の中... 大それたもの... けしき... 城の中... 大それたもの... けしき... 城の中... 大それたもの... けしき...



ナメタ...

世五

よきことなり... 城の中... 大それたもの... けしき... 城の中... 大それたもの... けしき... 城の中... 大それたもの... けしき...



ナメタ...

世五





ナカハチノ...

九九

...

...



家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆黒九子... 弘前九飯田中坂下南前田



御免江戸層開板所梅海... 載陽帖全一冊 南山禪師書 石摺和文章



國安画

御免江戸層開板所梅海... 載陽帖全一冊 南山禪師書 石摺和文章

撰新日本各所之繪會唐紙摺一枚 蕙齋銀形 紹真筆

撰新古今狀揃園生竹 大木 兩函出来 高井蘭山編撰

撰新還塊紙料 柳亭種彦隨筆 古曲一冊

撰新甲喜菴輯 芳の

撰新義貨翁 女同放言初編二編

撰新隨筆 右才三編三冊

撰新御免江戸層開板所梅海... 載陽帖全一冊 南山禪師書 石摺和文章

三載註水木抄

芳州集

歡童

廣益懷中

新形深彩

芝居似顏

文字自笑

三箇之津

師考百鏡

用紙八州... 芳州集... 歡童... 廣益懷中... 新形深彩... 芝居似顏... 文字自笑... 三箇之津... 師考百鏡...

芳州集 全一冊 江戸時代... 芳州集の巻末に...

廣益懷中 全一冊 江戸時代... 廣益懷中の巻末に...

芝居似顏 全一冊 江戸時代... 芝居似顏の巻末に...

師考百鏡 全一冊 江戸時代... 師考百鏡の巻末に...

忠臣水滸傳

繪入十冊 忠臣水滸傳の巻末に...

稗史水滸傳

初編六編迄共三山東京山譯

水滸傳劇場雛形

初編鶴屋南北作

稗史水滸傳

七編八編迄寅新校 柳亭種彦譯

水滸傳豪傑雙六歌川國芳画

画面ふいろくの奥あり

繪本三國志初編八冊出来

重田貞一譯 歌川國安画

繪本漢楚軍談

初編五編迄通漢楚軍談を...

